



十西小だより

弥富市立十四山西部小学校
学校だより 第23号



令和元年10月1日

観劇会～夜明けの落語～

9月26日(木)に観劇会が開催されました。劇団うりんこによる『夜明けの落語』というお話です。あらすじは……

小学4年生の野中暁音(のなかあかね)さんが、この世で一番こわいものは、人前で話すことです。その暁音さんに最大のピンチが訪れます。それは日直が週の終わりに話す『5分間スピーチ』です。悩んでいる暁音さんに救いの手を差し伸べたのは、一緒に日直をしている三島朔太郎さんでした。朔太郎さんが暁音さんの代わりに5分間スピーチで披露したのは、なんと、落語『まんじゅうこわい』でした。落語の面白さに感動した暁音さんは、朔太郎さんに落語をやってみないかと誘われます。落語の魅力にひきこまれ、だんだんその気になっていく暁音さんですが、そのことが原因で親友の初音さんと気まずい関係になってしまいます。しかし、「今のままでは何も変わらない、初音さんに自分の思いを伝えたい」と、暁音さんは次の5分間スピーチで『寿限無』を披露する決意をします。そして迎えた当日……。

落語のおもしろさや役者さんの迫力のある演技、演出の素晴らしさに劇の中にどんどん引き込まれ、あっという間の80分でした。子どもたちの感想の一部を紹介します。

『よあけのらくご』をみたよ。はじめはあんなに小さいこえだったのに、さいごは大きなこえになってびっくりしたよ。わたしも、がくしゅうはっぴょうかいに大きなこえがでるようにがんばりたいです。(1年)



えんぎがすごくて、しんけんに見ていました。もうすぐ学習発表会があるので、みなさんのえんぎをまねしたいです。みしまさくたろうさんが言っていた通り、気持ちをこめてえんぎをしたいです。一番おもしろかったところは「皿やしき」という落語の、本当は9まいなのに、10まい、11まいと、9まいをすぎてしまったところでした。また、うりんこさんのえんぎを見たいです。(3年)



げきだんうりんこさんの『よあけのらくご』を見ました。さいごにあかねちゃんらくごにちょうせんしたことにおどろきました。さいしょは声が小さかったのに、だんだん大きくなって、すごいなと思いました。(2年)

『夜明けの落語』を見て、初めてこんなに落語は楽しくておもしろいんだと思いました。私の中のかってな落語のイメージは、一人がもくもくしゃべっている感じです。でも、この劇を見てから、落語のイメージが変わりました。私も落語をやりたいと思ってきました。また、来年もうりんこさんの劇が見たいです。(5年)

『夜明けの落語』とてもおもしろかったです。劇団うりんこさんの劇は、とても気持ちがこもっていてすごいと思いました。のなかあかねさんががんばって落語をみんなの前で発表してみようと思ったときは、きんちょうしてできなかったけど、最後の場面で、友達や先生のおかげでできるようになっていたことがとても心に残っています。こんなすばらしい劇ができてすごいと思いました。(5年)

私は、『夜明けの落語』を見て、いろいろな感情になりました。さらに、言葉の強弱の付け方、体での表現の仕方等、ものすごかったので、感情が大きくゆれました。楽しい気分になったり、悲しい気分になったり、うれしい気分になったりと、その場面にあった気持ちがたくさん出てきて、「劇を見るだけでこんなに気持ちが自由自在に動くんだな」と改めて実感しました。主人公の女の子の気持ちに目を向けると、「大好きになった落語を、いくら親友にでも悪く言われたくない!!」と心の底から思っているように見えました。私も、自分の好きなことを悪く言われたら嫌な気持ちになります。だからこそ、これからは自分の言葉に責任をもって発言したいです。(6年)